

ドキドキの新学期

校長 武井 正明

学級発表やら担任発表やら、先週はみんなドキドキの新学期初日だったことでしょう。なかには「これから担任の先生が発表されますが、一喜一憂しないようにしましょう」といった前置きをしてから、学級担任を発表する学校もあるようです。

私はこれが嫌だった。

何が嫌かって、私の担任クラスが発表された瞬間の、私のクラスを免れた生徒の、何ともホッとした、苦笑ともつかない肩の荷が下りたような空気が、である。

当時は生徒指導主事をやるが多かった。今の自分とは全く対極の表情で、生徒に接していた時期も長かった。だから、「生徒指導の武井の担任」だけは、とにかく勘弁してもらいたいというのが、楽々過ごしたい生徒の本音だったのだろう。

そして、そういう反応を何度か経験するうち「その場面」を想定して、自分がショックを受けないように自虐的な「保険」を掛けながら、心の準備と言葉を予め用意する。だから先日の丹波先生の気持ちが、私にはよく理解できた。



学校は組織だ。先生方の希望は訊くものの、叶うとは限らない。学校全体のバランスを考え何度も検討を重ねたうえで、ようやく新年度の体制ができる。中には「このクラスを持ちたかったのになあ…」と後ろ髪を引かれる思いの先生も、少なからずいたはずだ。

別れがあれば出逢いもある。

私は、特に吉中生の人たちには、いろんな出逢いを経験してほしいと思っている。

世の中は自分を中心に廻るほど都合よくできてはいない。ある程度、世の中に自分が合わせていかなくてはやっていけないのが、この人間社会だ。

その幾多の出逢いの中で、いろんな折り合いをつけながら過ごしていく中で、人生を変えるような出逢いが、きっとやってくる。人は人で変わる。

私は中2時代「絶対同じクラスになりたくないな」と思っていたヤツと一緒にのクラスになってしまったが、気付いたらいろんなことを話す仲になり、ついには盃を傾け合う大親友となった。実は昔お前のこと、そう思っていたなんて、本人にも言っていない。人の縁とは不思議なものだ。

彼からは人生の節目や苦節で、いつも心強い言葉や叱咤を掛けてもらっている。

吉中のみんなにも、そんな出逢いが訪れてくれることを願っている。